

紙製の代替パッケージを開発 耐久性・ホールド性を実現

中央工芸企画

1969年創立の中央工芸企画は、パッケージやプロモーション用POP、販売仕器等の企画制作を中心に事業を展開している。3次元的構造を要する製品の企画開発・デザインに加え、埼玉物流センターでは食品や化粧品をはじめとする、数多くのパッケージのセットアップ加工も行っている。

今回、同社は海洋プラスチックごみ削減に向け、紙製吊り下げ式パッケージを開発した。コンビニエンスストアやドラッグストアなどに吊り下げ陳列する商品向けに開発したという同品は、真空成形・射出成形によるプラスチック容器を使うことなく、紙だけで商品を固定することができる。近年、多くの企業でSDGsへの取り組みが加速する中、海洋プラスチックごみの原因となるプラスチック素材を使用しない紙製品として、提案に注力していく。

文房具メーカーをクライアントに持つ同社は、特許も取得しているというプリスターパックを中心とした販売容器を多数展開している。そんな中、EUを中心とした環境配慮の加速を受け、文房具向けに紙製の販売容器の開発が行われた。

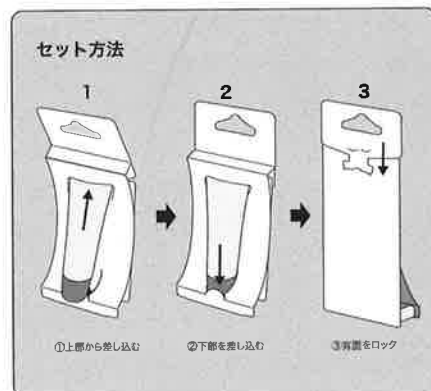
環境配慮については、様々な産業で取り組みが進められている。そこで文房具に限らず、ニーズの高い化粧品分野への提案にも踏み切った。アイライナ

ーなどのペンシル型化粧品や、チューブ容器の化粧品など、比較的重量が軽い製品への提案を中心に進めていく。

紙製でありながら耐久性にも優れており、店頭で商品のみが抜き取られる盗難を防止するため、ホルダー裏面の切り込みからパッケージを破らないと商品を取り外すことができない構造となっている。さらに、ホルダー下部に底面を設けることもできるため、吊り下げずに自立陳列することも可能だ。また、紙製のためパッケージへの印刷も可能で、店頭での訴求力向上を図ることができる。そのほか、コスト面でのメリットに加え、圧着されたプリスターパックに比べて、易開封性にも優れている。

化粧品分野の展開については、環境配慮という文脈との親和性も高いオーガニックコスメへの提案にも取り組んでいくという。営業本部企画部クリエイティブディレクターの望月真二氏は、「SDGsへの取り組みも求められる中、企業の姿勢と一致するパッケージは魅力的だ」と話す。

展示会なども含め、海外への展開に際しては環境配慮を意識する企業も多い。様々な課題はあるが、各社から積極的な取り組みが行われており、望月氏は「国内でも、さらに生活者レベルで環境意識が浸透していけば、コスト面などのハードルも次第に解消されていくだろう」と語る。



※特許名称「吊り下げホルダー」 特願2019-136058

